

ID No.	2066
研究課題名	食道 Barret 上皮の試験管内作成と解析
研究代表者	川口 義弥 (京都大学・教授)
研究組織	
受入教員	山田 泰広 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	藤井 佳穂 (京都大学・特定研究員) 三小田 亜希子 (京都大学・研究員) 三小田 直 (東京大学医科学研究所・研究員)
研究報告書	
<p>マウスにおいて、食道Barrett上皮の起源細胞の発生メカニズムの詳細な解析を行い、転写因子Sox2とGata4、およびMAPK/ERK signalingの協調的な作用により、Barrett上皮の起源細胞が幹細胞に近い状態で食道胃接合部に局在していることを解明し、現在論文投稿中である。その知見をもとに、iPS細胞からの分化誘導に際してSox2とGata4、MAPK/ERK signalingをコントロールすることで、食道と胃のオルガノイドを形成したことは前回の報告通りである。今後は、マウスモデルにおいて、以前未解明であるBarrett上皮の形成メカニズムを分子生物学的手法を用いて明らかにするとともに、その知見を生かして、再度iPS細胞から分化誘導した食道、胃上皮オルガノイド異形成を引き起こし、dish上でBarrett食道上皮の形成を目指す。</p>	